



高 葉

葛葉懐印

丁丑





寬  
嶺  
宮

宣  
統  
年  
底

溪  
水  
藏



心成るる物

水車はやわらば

さくら人み春

さくらさくら

さくら中催化

さくらさくら

けふさくらさくら

俳仙堂  
定雅

發句部

あゝあゝあゝははは 非代乃くくくは 鏡子

くくくくくくくくくくくくくくくく 女川

あやあやあやあやあやあやあやあやあや 采史

あやあやあやあやあやあやあやあやあや 宇柳

あやあやあやあやあやあやあやあやあや 又佳

あやあやあやあやあやあやあやあやあや 又角

あやあやあやあやあやあやあやあやあや 又峯

あやあやあやあやあやあやあやあやあや 純口

あやあやあやあやあやあやあやあやあや 白蝶

るやしら代を 終る程あはれ  
えりやふるも しのむらあはれ  
きふらに 招くてみるあはれ  
猿人の ちりえんあはれ  
孫をみ 執つたはるあはれ  
競子た ちやハきあはれ  
あはれあはれ 孫をみあはれ

文慶  
長角  
雙子  
吉波  
文波  
里鏡

禹王は いら後らるあはれ  
こら海を ぎぬるあはれ  
孫桶乃 尾丁のあはれ  
雷丈

芥水  
兼史

○

あつー ちかむるあはれ  
葉カテ 果さる日あはれ  
夕暮や さいらるあはれ  
しんわ 雲のあはれ  
ゆーも るあはれ  
涅槃今 ち代もあはれ  
又さー ちあはれ  
あはれあはれ ちあはれ  
あはれあはれ ちあはれ

霧雪  
那揚  
栲亭  
女奴  
相也  
接牛  
全接  
瀨江  
李雙

○

若くは龜山之藩中

おもひも延一きな〜夕さくら 観奥  
 ち〜まのの中よりの身を産乳 生乳 父木  
 うたてつておふらららららぬら、一産  
 鑄の姿のえゆるや〜た〜に 水、固碎  
 とも〜とも 東表まを物、う那 對磨  
 漱〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 深水

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 空雅

○

後善社中

漕りやま〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 素朴  
 扱〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る 白水  
 ま〜れ〜れ〜れ〜れ〜れ〜れ〜れ〜れ 其意  
 り〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 有と  
 ひ〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま 谷電  
 鱈〜や〜や〜や〜や〜や〜や〜や〜や 若山  
 め〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の 将石  
 よ〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま 吐然  
 ぶ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら 巴頂

大和路やまゐの中を鏡の夢  
 ひまのぬまの鏡や鳴るお石  
 春おる月乃乃みりてを流きさけり  
 巨唐のしるしかく里やふさくさ  
 うけらふそをれ述ハや田西か  
 摺籠の中こゝろきぬまの物  
 かきろふ乃振くやこゝろし  
 そはらへる海舟よ一のふれか

伏見書林社中

火ももはあそあの中や春のる  
 川ぬや折をえぬえををあり  
 山ぬのなう折えををのわらう那  
 雙やね乃あさよまの海  
 まる細の中を春あそををを  
 へんう代乃まうこゝろえや能ふ  
 やの果をらしあふさけらみ  
 山つらさえてま果家の能うる

名街の石きいつうめて維るお石  
 甚獨

伝函社

幽興  
 春湖  
 藍湖  
 分橋  
 鳥渡  
 一危  
 維名  
 梅里

山一ろ帆や山一山の細さちにい  
念もも人のさむさう春乃山  
おろきしりゆゆ午の生る一  
切ゆゆゆ右則きて押こり  
えん

梅さささしそ城まきあゆ  
おゆさや念れ念をきり一  
念にりのほさし一ゆゆ  
まゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

能代連系之部

かき川や海りある春ゆゆ  
往來の袖乃梅と梅よ  
夢さささゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ





此籬の給をぬらねるを  
 雅、  
 神さるるふと山に  
 池、  
 多るゝてさるるに  
 雅、  
 世のなかさるるに  
 池、  
 秘しむるるをの  
 池、

口一

伏見書局社

定雅

此月のあつたあつた  
 本末山さるるをふ  
 里、

此の旅さるるのさるる  
 雅、  
 瓢箪をさるるに  
 雅、  
 此思ふるる月冷く  
 里、  
 昔もさるるに  
 里、  
 昔終るるのさるる  
 雅、  
 此入るるのさるる  
 雅、  
 此さるるのさるる  
 里、  
 此さるるのさるる  
 里、  
 此さるるのさるる  
 雅、

縁終結つるハルの雪、事しとを 雅

追し知るハルの雪、事しとを 雅

急景、朝し暮る、物、事、てら 雅

月を、接し、事、事、事、事、 雅

筆を、適し、事、事、の、事、事、事、 雅

彩の、事、事、事、事、事、事、 雅

曰、曰

山、山、山、山、山、山、山、山、 雲、雪

系、系、系、系、系、系、系、系、 定、雅

え、え、え、え、え、え、え、え、

月の、事、事、事、事、事、事、 雪

事、事、事、事、事、事、事、事、 雅

孤、孤、孤、孤、孤、孤、孤、孤、 雅

事、事、事、事、事、事、事、事、 雪

事、事、事、事、事、事、事、事、 雅

事、事、事、事、事、事、事、事、 雪

事、事、事、事、事、事、事、事、 雅

力、力、力、力、力、力、力、力、 雪

事、事、事、事、事、事、事、事、 雅

事、事、事、事、事、事、事、事、 雪

実ある雨をさるるむかし

雅

長女弱也羊腸のよも草む根のり

雅

ちかた方ふのふ絶絶る

雅

ちこころのさるもちかたのさる

雅

さるるさるるのちかた

雅

白一抄

法蓮社

古福や侍さるるし万代を

雅

邪とちかた・さるる

雅

渾みさるるもさるる

雅

日本結のさるる

雅

秋鳥隠れのみ草有る

秋友

掃餅を踏少あ

雅

また秋るるもさるる

雅

さるるのさるるのさるる

雅

あつるさるるのさるる

雅

あつるさるるのさるる

雅

あつるさるるのさるる

雅

あつるさるるのさるる

雅

あつるさるるのさるる

雅

あつるさるるのさるる

雅

粟ささめとさき 確のききくく  
本懐みあつたれ くら 延まらる  
上らうら ぎおる 法のをぬる  
ささめささめ ささめささめ

句一抄

定雅

きみおきしとまきし のやまはら  
この路 確のつげも ぬらうら  
能はるる 乃一ゆら せせせ  
法さう せせせ せせせ

力交

雅

月のみなる ささめささめ

、

おむつ、ささめささめ  
あつたぬ 秋のくさきに  
はくく せせせ せせせ  
垣根く人きし のけせせ  
何邊 念ふ せせ 昇乃か、  
夕一 神はの 東町の せせせ  
汐の せせせ せせ せせ  
あさ せせ 十人 せせ せせ  
毎に せせ せせ せせ 力  
社を せせ 月を せせ せせ

、 交

、 雅

、 交

、 雅

、 交

此のうまハ、うけ捨てある 雅

よめ川とさし〜さそまの花

き〜と〜さそ 故人カ、部 文、

○ 同、水

後、さか、お、お

ふ、ゆ、や、お、の、お、ふ、む、ま、さ、り、水、白水

き、ふ、〜、〜、〜、さ、さ、み、り、と、お、素朴

お、は、な、さ、る、新、う、お、の、さ、れ、〜、〜、〜、〜、定雅

お、つ、〜、〜、〜、〜、〜、こ、こ、水

西、〜、お、〜、〜、〜、月、カ、〜、〜、〜、

お、れ、は、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、ト

お、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、水、

お、部、お、〜、〜、〜、〜、〜、〜、水、

と、舞、の、袖、籠、子、の、紙、を、〜、〜、〜、〜、雅、

お、お、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、水、

と、海、の、又、果、〜、〜、〜、〜、〜、〜、水、

と、お、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、ト、

と、お、井、に、人、路、の、ま、ぬ、〜、〜、〜、〜、水、

と、お、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、水、

と、お、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、ト、

と、お、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、〜、ト、

涼糸と糸の糸を糸み糸ト

ハ幡ささげのつるゆるうゆる山 雅

○日つ折

梅うきわに月と月の月 五系却 定丸

を物とらるる言ひけれ 篇

小鈴汲る縁をけつる川糸 定雅

毎のこ会さけ望るる 丸

冬のかさきもささぬ成りけり

たさねえおけり日乃ささき

ささきつり積るささき 俵

あうはらたし解るる修まら

あのみまのつる 福禎 雅

確も酒あく 中平 雅

夕るさるる 蝶 丸

葉あさ葉あもあらしるる月

踊奇ふ もさるる 丸 雅

ささきの秋ささき 乃秋 丸

蝶々 糸 山 乃 乃 糸 糸 糸

解 糸 糸 糸 糸 糸 糸 雅

つ 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

洞ふくくく蛙きんかく丸

○發句部

昔あけく後ほ取く田くく  
人のおきさくく博子福の意  
もふさやぬくきれきき海海義雄  
小結くさくさくある日お外上素白  
畦るのくくく移やまぬる里石  
春海くく中り人通ヨトミ幸水  
軒乃移るふるやんくくヨト龜石  
つたみきんくく天くく  
夕梅素白

ふくくくあまふ風

くくく蛙

くくくよりの雅

くくく

洪イセカ苔露

くくく

くくく雅

くくく

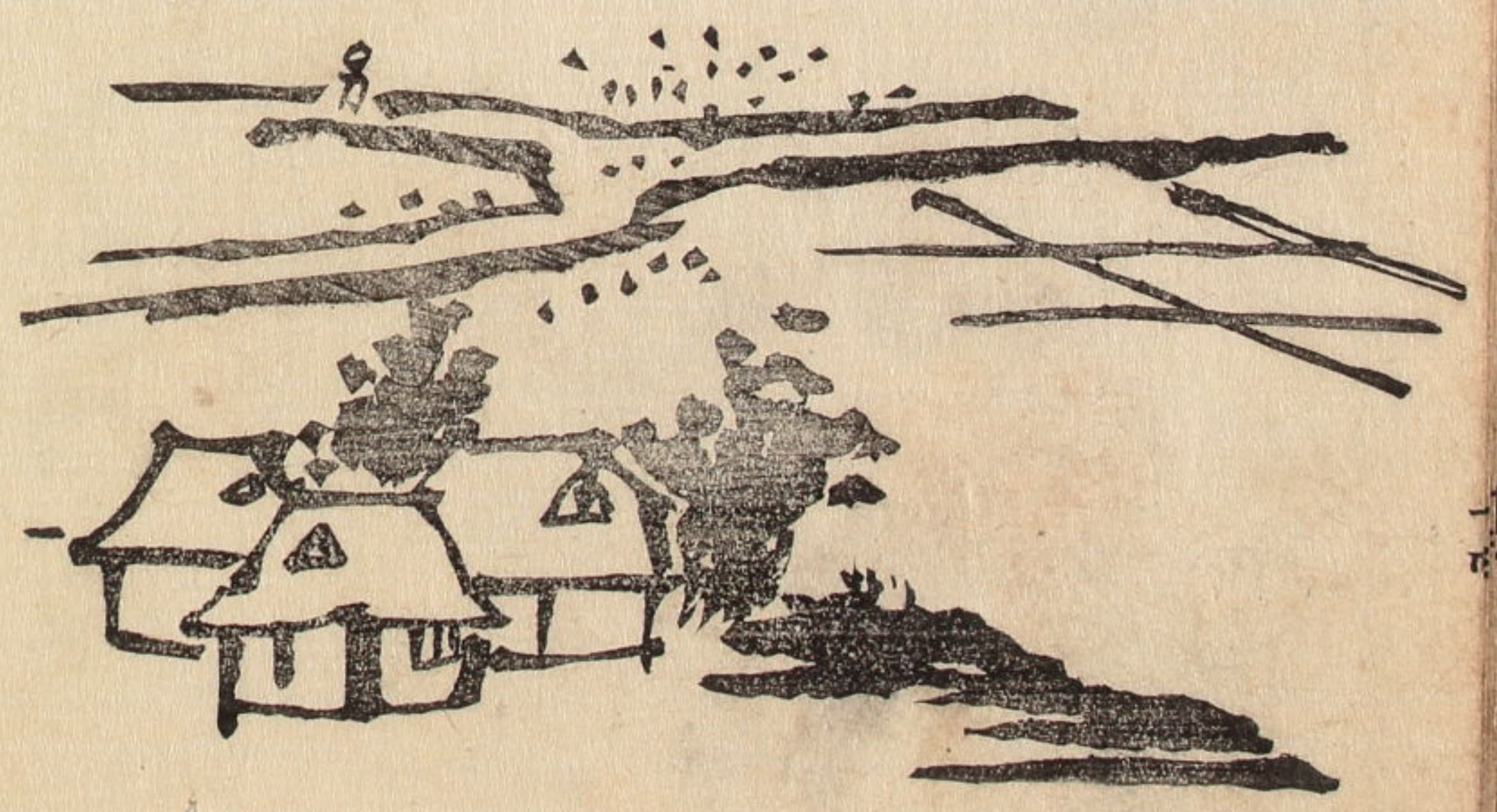


あふのむらさき 一貫  
人々あてり

あふのむらさき 定雅  
あふのむらさき

あふのむらさき 定雅

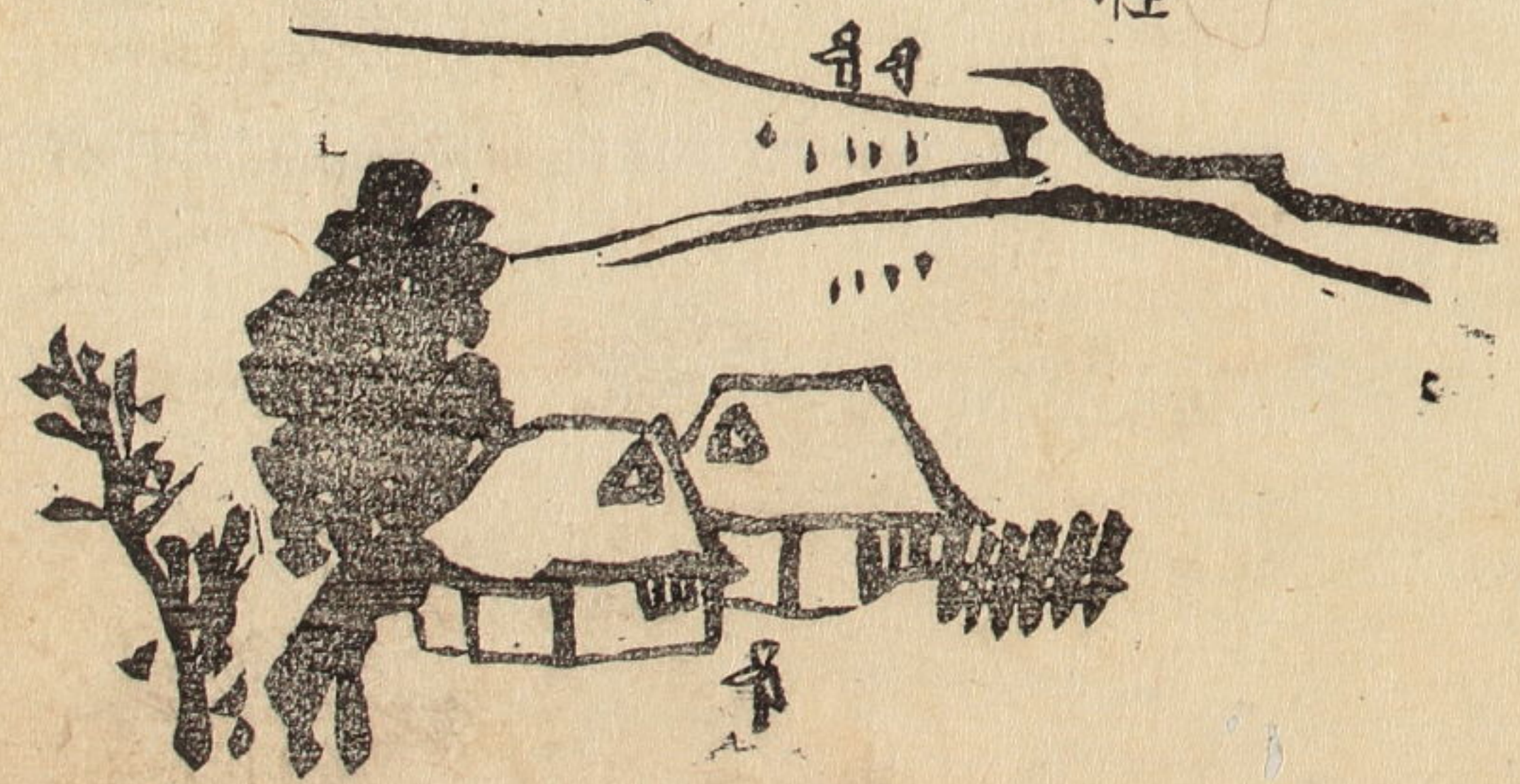
あふのむらさき 定雅  
あふのむらさき 定雅



あふのむらさき 定雅  
あふのむらさき 定雅

あふのむらさき 定雅  
あふのむらさき 定雅

あふのむらさき 定雅  
あふのむらさき 定雅





さやいぬらまのん 梅里

こぬえあや

あきうらき 籬

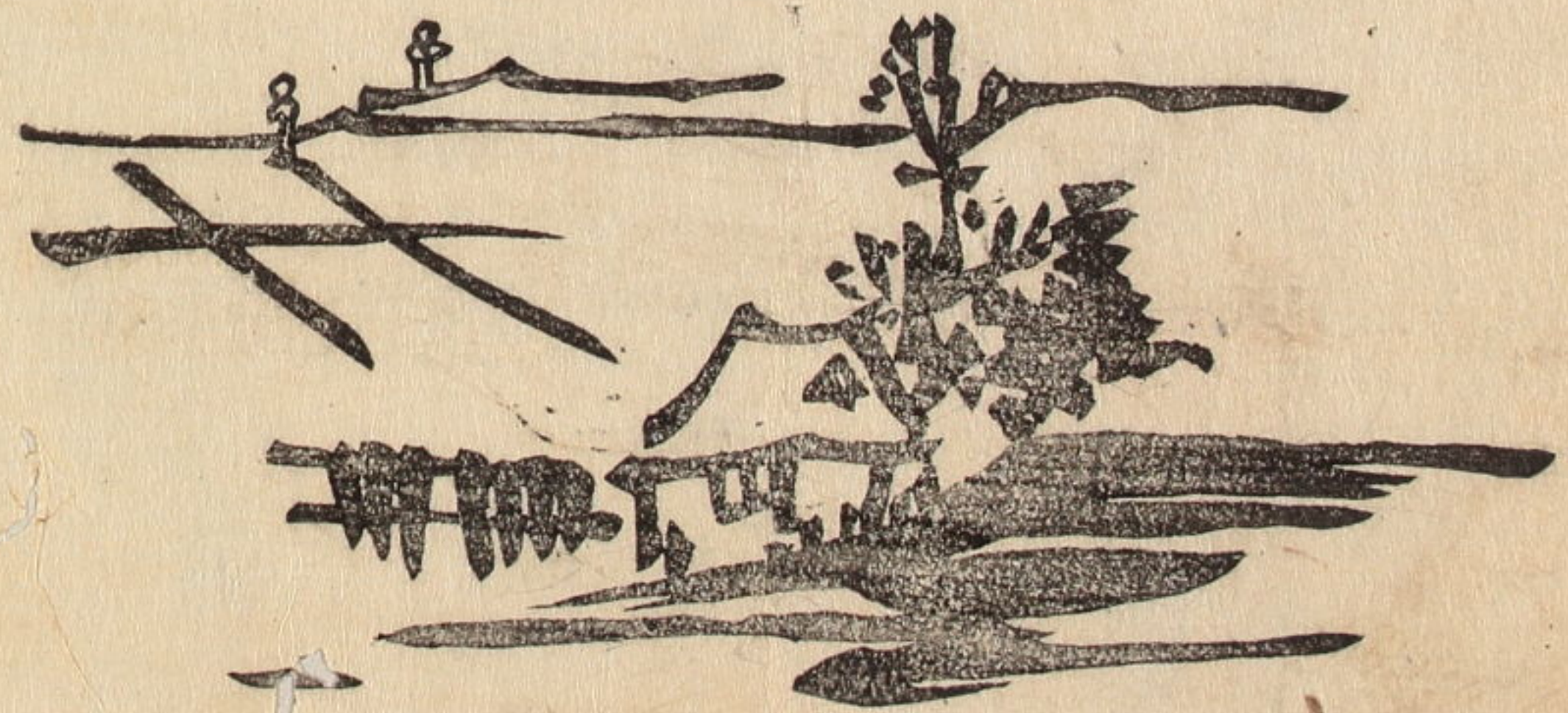
園の隈 籬

たぬるやる 淵

あやうらふ 一草

ふぢうらね 籬

ふぢあうらね 籬



栞の月けり 壺園

なうらけりうらね

あやうらね 籬

あやうらね 籬

あや

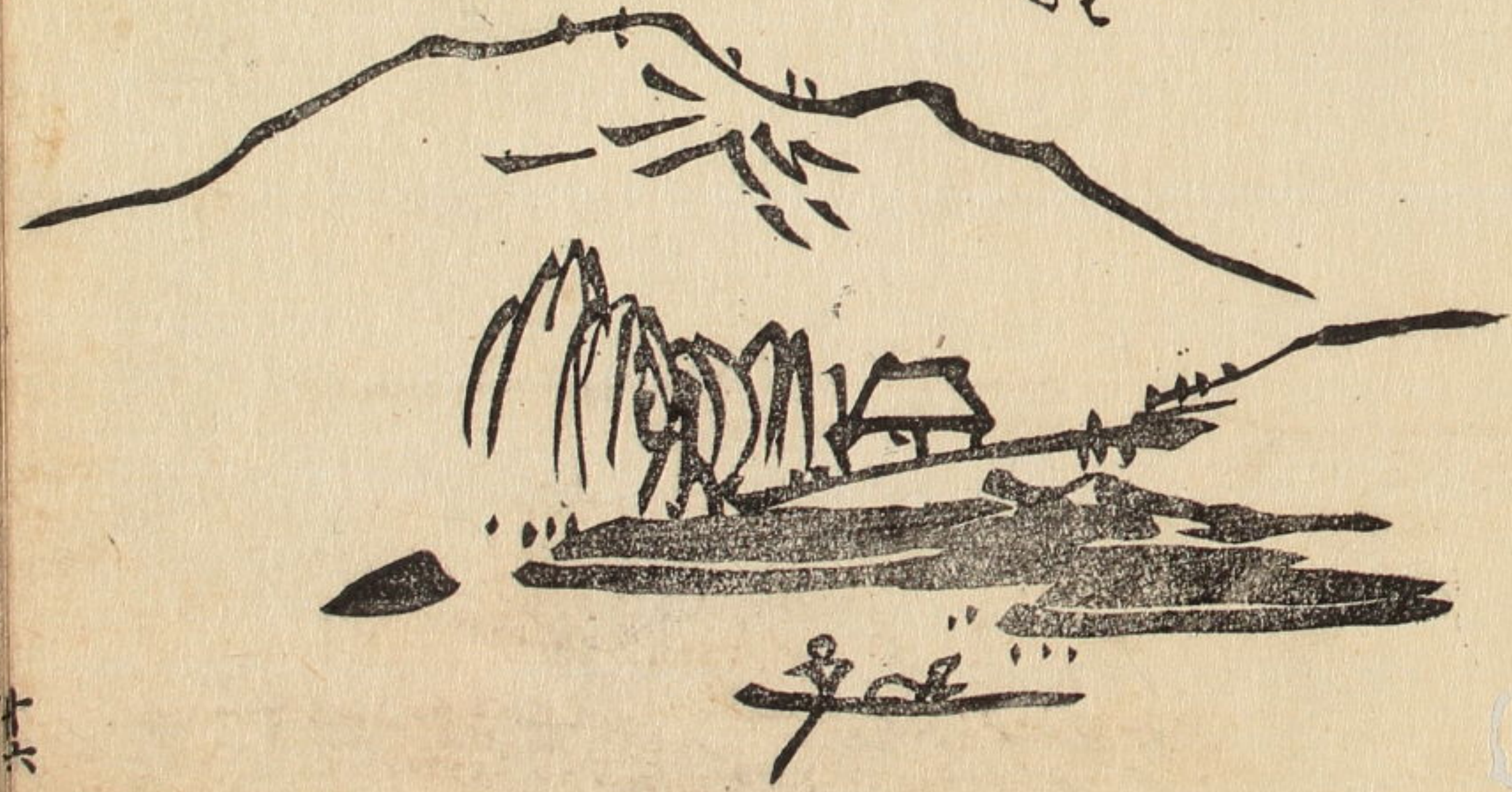
あやうらね 籬

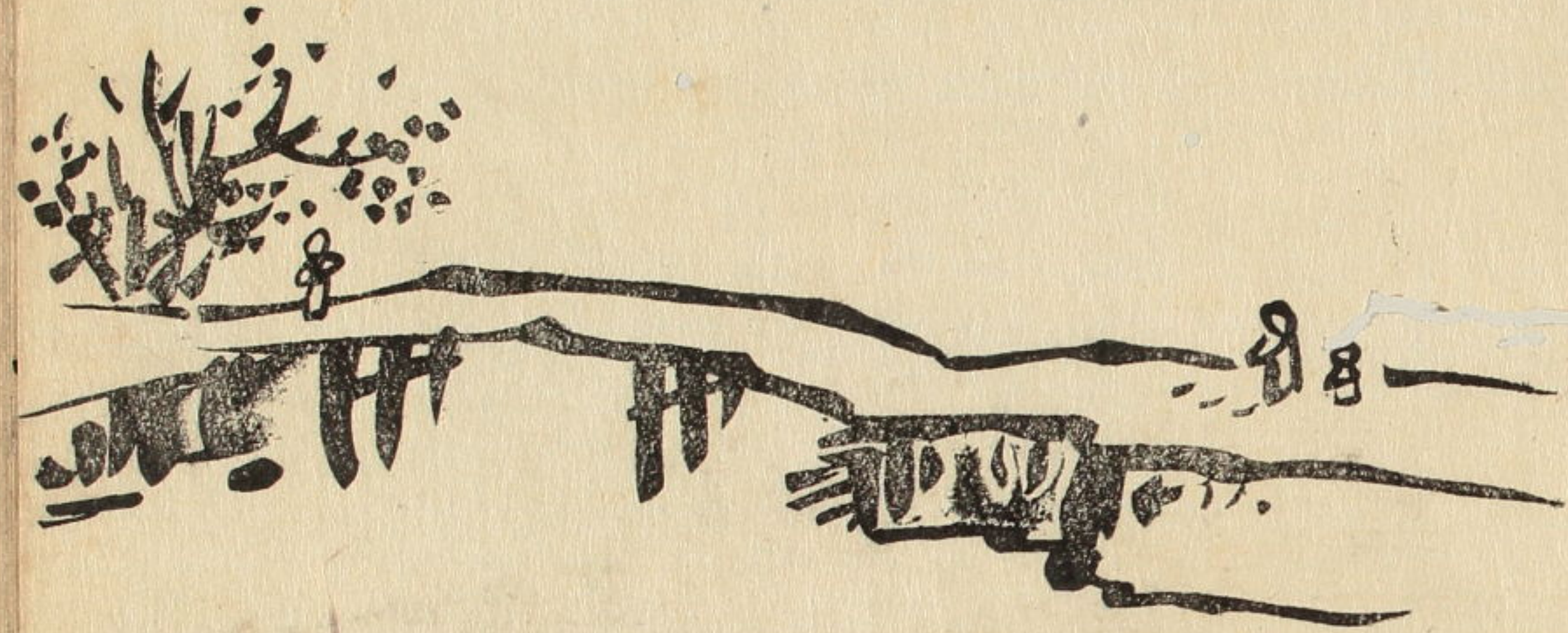
あやうらね 籬

あや

あやうらね 籬

あやうらね 籬





下任を抄の 月交

あきやうき

庭几こ御々 雅

石河くむ

角田川を 立寄武

とくあなけいさき 立寄丸

くやまやこく

うきやまき 雅

うきはんさくら



枯ろくし 立寄阜

きりけやみ様

世のあけり 雅

世のあけり

理汗

いそれそめり 川

あかひのりよ 雅

あきのあけり



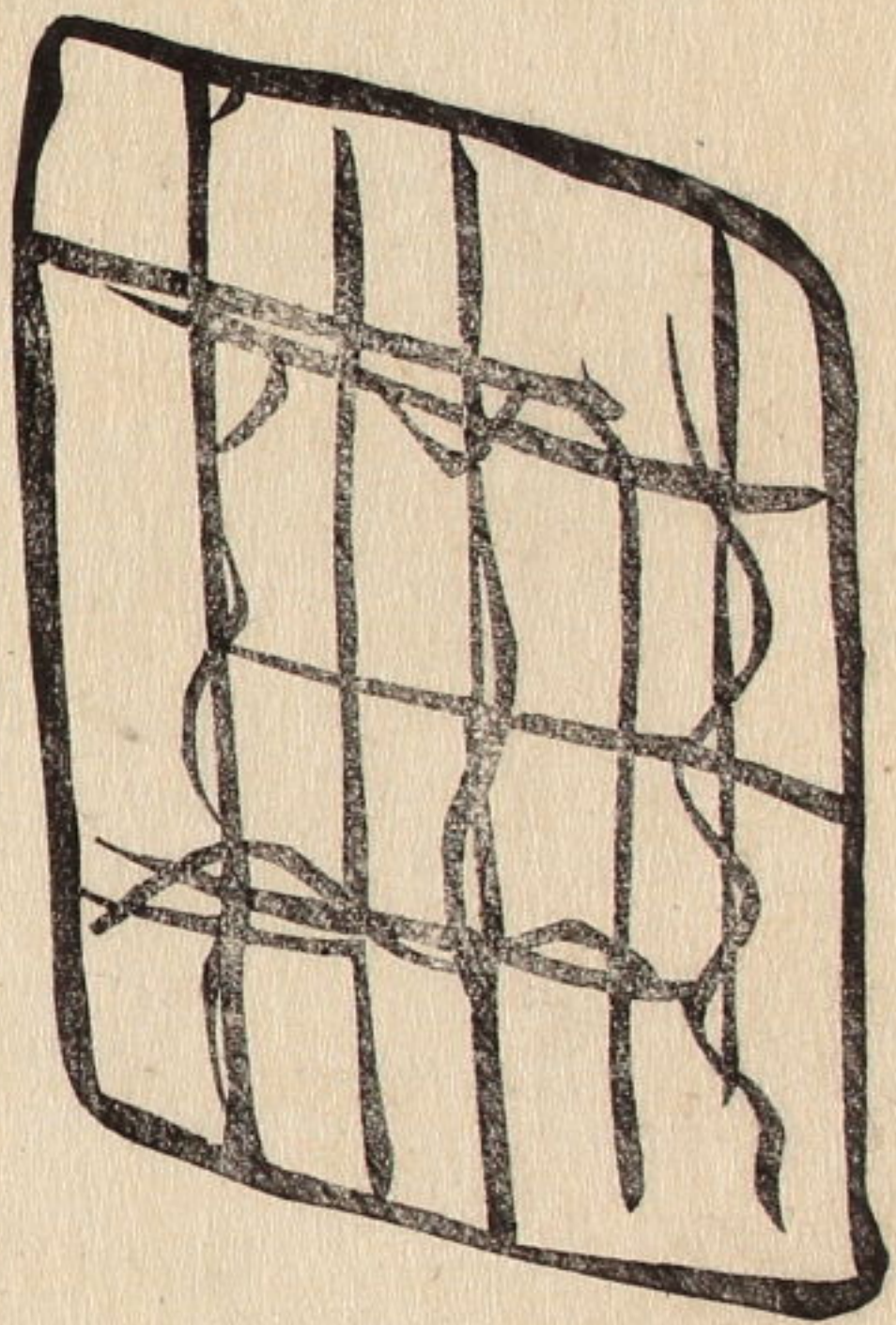
あつらふやせんと 思ぬ  
あつらふやせんと  
あつらふやせんと  
あつらふやせんと

あつらふやせんと  
あつらふやせんと  
あつらふやせんと  
あつらふやせんと



あつらふやせんと 貨僕  
あつらふやせんと  
あつらふやせんと  
あつらふやせんと

あつらふやせんと 雅  
あつらふやせんと  
あつらふやせんと  
あつらふやせんと



えおんちかひて 権水

あつとまをる

除取する人の 雅

いほのまにま

まこれ海とあつとさうらぬ 旭 う那 フシ 藍洲  
いづつともなうてまき ヨト 子のわり 島中 大六  
茶のふや海をふ 田乃 翁 朗 夫雪

○ 衣ろくやしにたりとて江れ柳 蒼乳  
侍を祓りあつれとまきる 梅つとま あり春  
いそみまてまよはまりや小酒 華 中雄  
夕晴のふとまあそ 荏 あり子 月峰  
ふちに酒のこまらふにたつりくま 志 彦

○

伊そ不<sup>り</sup>くあるう<sup>ら</sup>れを<sup>つ</sup>る 居 洛周  
<sup>も</sup>お<sup>も</sup>た<sup>る</sup>ふ<sup>る</sup>を<sup>つ</sup>る 情<sup>の</sup>部<sup>女</sup>を<sup>し</sup>  
<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>け</sup>て<sup>お</sup>も<sup>つ</sup>斗<sup>や</sup> 幸<sup>の</sup>柳<sup>の</sup>圃<sup>を</sup>  
<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>る</sup>を<sup>つ</sup>る<sup>り</sup>つ<sup>る</sup>れ<sup>系</sup> 野<sup>狂</sup>  
<sup>夕</sup>そ<sup>る</sup>や<sup>焚</sup>ぬ<sup>く</sup>未<sup>れ</sup>ね<sup>乃</sup>月<sup>梅</sup>路<sup>を</sup>  
<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>る</sup>を<sup>つ</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>さ</sup>た<sup>る</sup>ま<sup>め</sup> 寄<sup>美</sup>  
<sup>暁</sup>の<sup>を</sup>情<sup>守</sup>一<sup>山</sup>さ<sup>く</sup>花<sup>月</sup>居

○

去<sup>る</sup>雅

定<sup>雅</sup>

梅<sup>お</sup>や<sup>な</sup>ま<sup>ら</sup>ら<sup>も</sup>さ<sup>ぬ</sup>よ<sup>を</sup>み<sup>く</sup>て

○  
月<sup>一</sup>歌

入<sup>り</sup>中<sup>の</sup>さ<sup>ら</sup>れ<sup>お</sup>を<sup>つ</sup>さ<sup>く</sup>野<sup>定</sup>雅  
<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>の</sup>ち<sup>ら</sup>を<sup>お</sup>ら<sup>ら</sup>ふ<sup>孤</sup>松  
<sup>え</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>真</sup>れ<sup>花</sup>を<sup>つ</sup>み<sup>あ</sup>け<sup>て</sup>  
<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>新</sup>中<sup>教</sup> 雅  
<sup>し</sup>あ<sup>ら</sup>り<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>の</sup>月<sup>花</sup>の<sup>月</sup>  
<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>麻</sup>の<sup>細</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>青</sup>  
<sup>司</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>素</sup>後<sup>を</sup>旅<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>雅</sup>  
<sup>生</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>山</sup>さ<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>む<sup>の</sup>圃<sup>雅</sup>

夫亦丁記の文よ世をくらし  
 てもあさきしよふ事なほ乃  
 三合のらあもこりた余るた  
 甚もたらぬ信使路の宿  
 捕の積欠せきもさるおも  
 候乃り國のちあかる月  
 狂比野の結き下より強きも  
 一むらちかて碎し味は  
 紅たさうい中たきよふ  
 山のうらもくさるまれり

松雅、松雅、松雅、松雅、松雅、松雅、松雅、松雅

○日一折

さられあうら枝より山さ  
 家のをともりつさき  
 松のさけ醒らなるまゆ  
 かのあうちくもさる山  
 降にけく射るもさく後  
 綱引さきとある管の  
 焚やさく中よ指うち  
 投系一弱の陰あなてし

定雅、貨僕、雅、僕、雅、雅

一節のちりも乾くをれり  
あつちとをふる川終  
る乃上を終るも洞なる  
お城ふけむく国のり終  
月うけのそむよりとも  
ははくくアと後見えう秋  
持おて山をうそくうそそ  
雪りもふれらるりくそ  
うけふの山をひらて打あて  
結る人のうけむは中る  
雅僕 雅僕 雅僕 雅僕 雅僕 雅僕 雅僕

○  
同平仙

峯のうそ山をうそくうそそれ山  
おとくのそあ ちとちる 終  
船競ふ浪を終のさかそそ  
さき小娘を 行そくうかあ  
月のある日におおそちうそそ  
大それたをうそくうそそ  
秋さきの命婦みつう洞伽吸て  
福系うたえちうそそ  
風、終、風、 定雅 又風

おききとて久留めの使付を  
啓<sup>タテ</sup>をいぬ女を建てて  
世の明り身を浮りて涙を  
るにちうくさるるふ月  
岩倉れは堂はるるも路を  
かして居る利平の秘を  
昔もあはるる水跡のふみ  
昔年のころをさるるなく  
またあはるるはるるはるる  
世のあはるるはるるはるる

雅、鳳、雅、鳳、雅、鳳、雅、鳳、雅

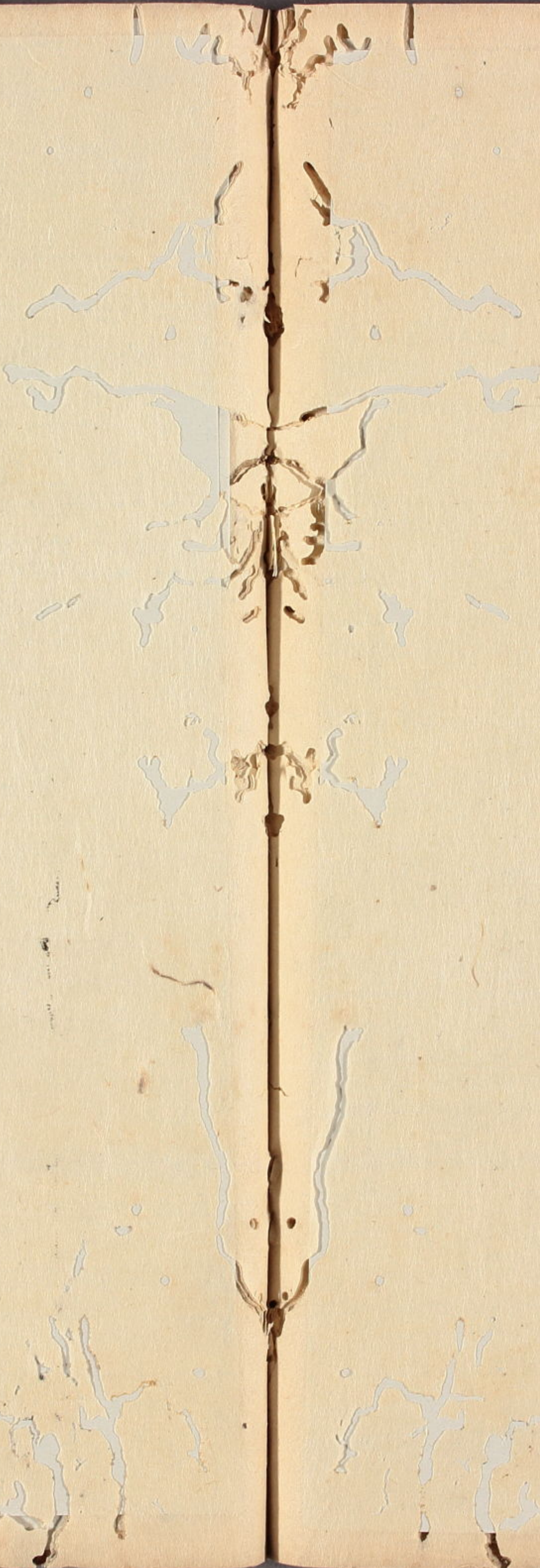
うらなうらなうらなうらな  
おののののののののの  
世々々々々の利をいつき  
はるるはるるはるるはるる  
おののののののののの  
そのまらにたるるはるる  
月口板子へあはるる  
石の海へあはるるはるる  
甲をたるとけるはるる

雅、鳳、雅、鳳、雅、鳳、雅、鳳、雅



發く更發くふのそ途を後少て  
 牙切くくくく 綱や身柳  
 麻衣くさき世さきふ 五節こ  
 空くくくく 乃骨  
 冪の安く行し極の夕くきて  
 空の勢仗乃る他さきと  
 空めちる 空やもふ家めふ  
 さくくく 終多 夢多 終多 年

雅、 鳳、 雅、 雅



○奇仙  
 空月や切取きて 身をそれ麻  
 水汲く 空本 瓜の小流  
 無はよの切く 終乃る 空分  
 空れ切く 空心 空切なる  
 空のそて 弱の勢 空の 終  
 空の 空の 掃ふ 空の 柱  
 掃田川 空の 空の 空の 空の  
 空の 空の 空の 空の 空の

空枝 空枝 空枝 空枝 空枝  
 空枝 空枝 空枝 空枝 空枝  
 空枝 空枝 空枝 空枝 空枝  
 空枝 空枝 空枝 空枝 空枝  
 空枝 空枝 空枝 空枝 空枝

一ちろろまはまみ者の本系味信  
 とと一ちろ田不旅乃大ぬく  
 ねふろ角力とる身をわさき下  
 萩ふも分けつまらる清も  
 むらむれとをんたるる新れ月  
 お一代登る家根をる人  
 産あよまらる面糸 被 箱  
 少ねくのいけれ後ひり  
 山やんあはうのいっ種乃心  
 名示のまをさるる無夢  
 阜 雅 枝 年 雅 枝 年 雅 枝 阜

ろ免汁まを、うかけしを辛子  
 示をくつす南新上もる  
 流をけきかあれゆらくと  
 うらぬみん時 の 蟹 豆  
 日のけ一浴の鹽 引 さうく  
 っりま枝のと地一張結  
 停少まよと孫むらた息を打忍云  
 ねとむあま方よふれ後合  
 草のちんさうとあふる干樹  
 め系半らけふ山新し一筆表  
 阜 枝 雅 阜 枝 雅 阜 枝 雅 阜

をまき水て月を乾へきさるなり  
 る羽も十羽下りる序鴨  
 古六世の令沈み—あら沈く  
 日に笑さ水を施我鬼勅  
 は心よりそ香れ煙のをみりり  
 秋のさよ春をさるさる  
 年あそふむささて心の中より  
 春のおくれはみりて枝  
 守 年 雅 枝 雅 年 枝 雅

ばあさ小田よおんてみれとまの  
 まるの降て秋をぬく—ルま  
 春乃乃おや獨りさるをまてお  
 りさるやさるのらほんちとま  
 守 年 雅 枝 雅 年 枝 雅

草紙終

文化十四年丁丑 書肆 江戸屋喜三郎

